



- ①多品種小ロットの難削材に対応
- ②加工手順などのデータはIT化
- ③大東市内にある第2工場

## 株式会社 橋本鉄工所



代表取締役社長  
はしもと よしのり  
橋本 佳典 さん

60年以上に及ぶ経験と実績を  
IT化して難削材に挑戦する

ステンレスやチタンといった特殊鋼を主に、旋盤・MCによる金属の切削加工を行っています。その実績は大型船舶やプラント工場、原子力発電などにおけるバルブのほか、医療、食品、電子機器などで使われるノズルにまで広がっています。真骨頂はステンレスのほか Hastelloy や Inconel などの難削材といわれる材料にも積極的に挑戦していることです。IT化によって一人ひとりが技術力を高めた社内体制がそれを支えています。今後は航空宇宙、エネルギー、薬品、食品などへの展開も目指しています。

- 主な事業内容  
バルブ・ノズルなどの金属部品製造
- 主な取引先(納入先)  
バルブメーカー、ノズルメーカー、産業機械メーカー

住 所 / 〒570-0032  
大阪府守口市菊水通2-6-2  
TEL / 06-6997-1287  
FAX / 06-6993-0389  
創 業 / 昭和26年4月  
設 立 / 平成 4年4月  
資本金 / 1,000万円  
従業員 / 8名

<http://www.hashimoto-ironworks.co.jp/>

# 難削材を中心に多品種小ロット に対応、すべての業務をIT化

## 事業内容と沿革

### バルブとノズルを2本柱に着実に拡大

昭和26年4月大阪市鶴見区で創業した「橋本鉄工所」は、ステンレスやチタンといった特殊鋼を主に切削加工を行っている。大型船舶やプラント工業、原子力発電などにおけるバルブのほか、医療、食品、産業機械、自動車などに使われるノズルへ事業を拡げ、昭和44年には現在の地へ移転した。さらに平成4年に株式会社化、平成27年2月からは大阪府大東市内で第2工場を稼働するなど、徐々に体制を整えながら事業を拡大してきた。

今の橋本佳典社長は3代目。平成26年12月に就任した。これまで人間の腕に頼ってきた仕事がNC(数値制御)に置き換わる時代になっても、これまで一つひとつ積み重ねてきた顧客とのコミュニケーションを強味にする。顧客からの要求にパターン化して対応できた従来とは異なり、困難な要求にもいつでも挑戦できる機会を狙う若さが武器だ。そして、品質・コスト・納期のバランスに気を配る姿勢が、「図面に書いていないことまでわかる」というノウハウとあってあらわれている。

## 強み

### チャレンジ精神で 難削材を切削加工

同社は大阪府守口市の本社工場と大阪府大東市の第2工場にて、旋盤・マシニングセンター(MC)といった工作機械を組み合わせた両工場の連携で取り組んでおり、その加工材料はステンレスやチタンのほか、難削材といわれる Hastelloy や Inconel などの金属を主に。顧客の精度要求などにも、図面に従うだけでなく実際の使用用途から逆提案していけるノウハウを日々蓄積している。

これら難削材といわれる材料は高温・高圧環境にも耐えることから宇宙・航空事業や発電プラントなどにも採用されているが、切削性が悪く、また材料費も大変高価になるため、特性に合わせた加工をする必要がある。橋本社長は、「とにかく簡単なものであれば安く作る方法はほかにもある。我々でしかできないことをやっていく。そのための課題にはぶち当たっていく」というチャレンジ精神で対応している。この挑戦を裏切るものにするために導入したのがITだ。

## 取り組み

### ノウハウをデータ化、 IT化を完了

まず難削材の加工を可能にしている工夫の1つが、加工のノウハウについてのデータ化の実現にある。データ化については、注文を受け、加工する際の過去の加工実績から加工注意事項などのノウハウを情報化。それを取り扱う従業員が共有し合うことで、効率を上げ、技術の向上だけでなく不慮の事故なども未然に防ぐことができ、技術伝承もスムーズに進んでいる。

この情報化を進めるきっかけとなったのは、橋本社長が現会長(前社長)からの仕事を継承する際、会社の情報が会長に集約しフィードバックすることがない状況による非効率性を肌で感じたことだ。

以降、危機感を覚えIT化を進め、今では、加工によるすべての業務でIT化が完了している。

## 今後の展開

### 切削以外の加工も、 取引先の拡大へ

従業員のうち20代から30代が大半を占め若さが溢れる職場。IT化の進展で、「これまで新しい仕事に対して勉強できる機会がほとんどなく、ただ経験することを鵜呑みにするだけだったのが、今ではすべての従業員が1から10まで仕事をこなせるように、着実に人材のレベルが上がってきている」と橋本社長は手応えを話す。「代わり的人材がいらないことを避けることで有給休暇も取りやすくなり、職場の環境改善にもつながっている」と続ける。

「とにかく付加価値の高いものこそ挑戦のしがいがある」と話す橋本社長。今後についてもターゲットは明確で、難削材で多品種小ロット品の対応を見計らって新しい設備も導入し、溶接や組立などの加工にも乗り出していきたい考えだ。そして、「航空・宇宙、エネルギー、薬品・食品業界などへと取引先を拡大していきたい」とまだまだ積極的な挑戦は続いていく。